

社会医療法人 耳鼻咽喉科麻生

4133

よ い み み

発行日
2025(令和7)年
8月1日

vol.
38

発行 社会医療法人 耳鼻咽喉科麻生
患者サービス改善委員会

日本補聴器工業会が行った
〈難聴者のQOL向上をめざす大規模調査〉では
補聴器の所有者の51%が
「もっと早く使用すべきだった」と回答しています。

早く使用していたら得られたと思うことは?	
より快適な社会生活	85%
より安定した精神状態	40%
より良い仕事	11%
夕方になっても疲れしない	10%
その他の理由	1%

きこえに少しでも不安があればご相談ください

麻生補聴器プラザエクセア

札幌店	北見店
札幌市東区北40条東1丁目1-27 TEL.(011)723-4133 FAX.(011)723-2363 営業時間 9:00~17:00 年中無休	北見市東三輪2丁目54-9 TEL.(0157)22-4133 FAX.(0157)23-7178 営業時間 9:00~17:00 年中無休

中耳炎の手術について

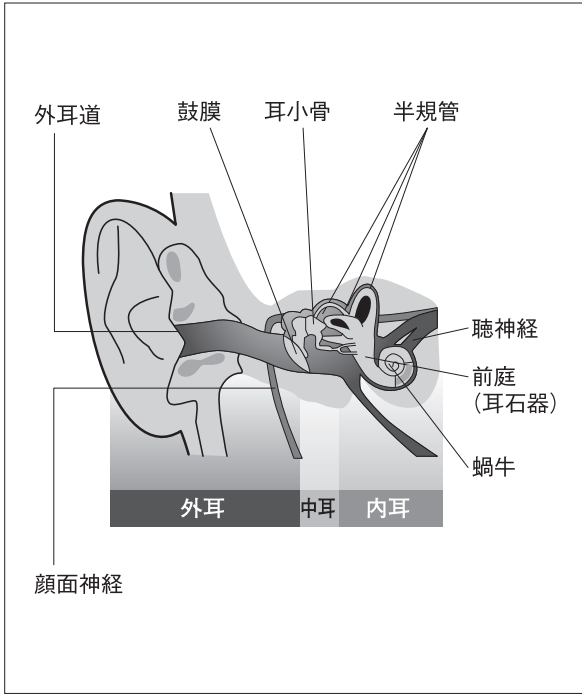
前編

慢性中耳炎は、耳だれ(耳漏)や難聴などの症状が続き、日常生活に支障を来すだけでなく、放置すると重い合併症を引き起こす可能性もある病気です。今回は、慢性中耳炎とはどのような病気なのか、そして当院でも行っている代表的な手術治療「鼓膜形成術」と「鼓室形成術」について、できるだけ分かりやすく解説します。

慢性中耳炎とは

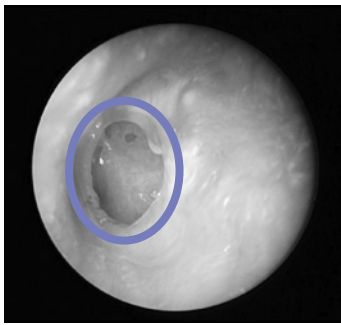
まず、「中耳」とはどこを指すかご説明します。耳は大きく分けて、外側から「外耳」「中耳」「内耳」の3つの部分から成り立っています。中耳は、鼓膜から奥にある空間のことで、鼓膜に伝わった音をさらに奥の内耳へ伝えるための小さな3つの骨(耳小骨)があります(図1)。

図1 耳の構造



慢性穿孔性中耳炎とは、急性中耳炎が長引くなどで鼓膜に穴(穿孔)が開いたままになり、そこから細菌などが侵入しやすくなることで、中耳の炎症が続いたり、繰り返したりするタイプの慢性中耳炎です(写真1)。

写真1 鼓膜の穴(穿孔)



主な症状は、耳だれと難聴です。耳だれは、普段は止まっていることもありますが、風邪をひいたり、耳に水が入ったりすると、粘り気のある膿のような分泌物が出る場合があります。ま

適切な治療で治癒します。一方、「慢性中耳炎」は、急性中耳炎が治りきらずに長引いたり、繰り返したりすることになり、中耳の炎症が慢性化(長期間続く状態になること)したものを指します。慢性中耳炎には、大きく分けて「慢性穿孔性中耳炎」と「真珠腫性中耳炎」の2つのタイプがあります。

慢性中耳炎の例① 慢性穿孔性中耳炎



今回の解説
麻生病院
耳鼻咽喉科 医師
福田 篤

慢性中耳炎の例② 真珠腫性中耳炎

でも、鼓膜の穴が残っている限りどうしても再発を繰り返してしまいます。難聴は、鼓膜に穴が開いているために音の伝わりが悪くなる「伝音難聴」が主ですが、炎症が長く続くと、音を感じ取る内耳の神経にも影響が及び、「感音難聴」が加わってくることもあります。補聴器で聴力を補うという方法も考えられますが、耳だれが残っている状態では補聴器が汚れてしまうため、適切に使えません。また、一度、感音難聴が進行すると聴力の回復は難しくなりますので、その前に、後述する手術により鼓膜をふさぐことが重要です。

図2 真珠腫性中耳炎の進行イメージ

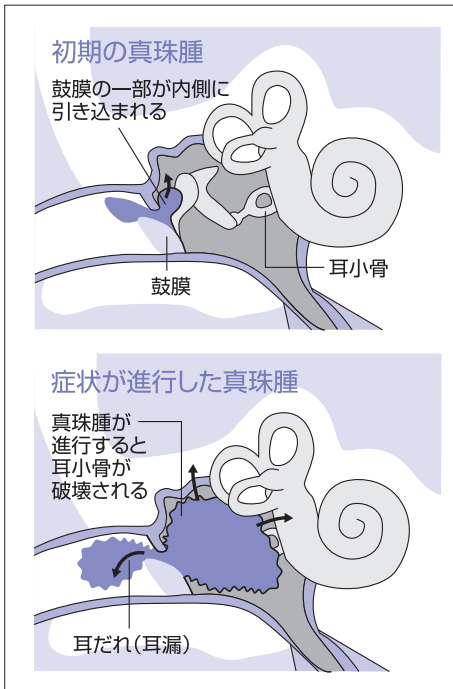
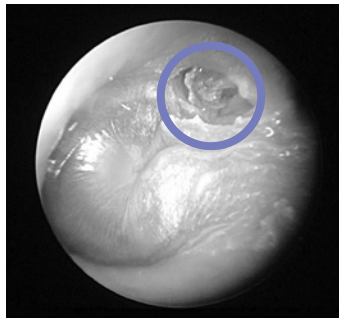


写真2 真珠腫



た、おいを伴うこともありますが。抗生物質の点耳薬や内服薬といった保存的な治療では、一時的に耳だれの症状が改善し

こちらは、少し特殊なタイプの中耳炎で、中耳に「真珠腫」と呼ばれる袋状の病変ができていくタイプの慢性中耳炎です(写真2)。鼓膜の一部が内側に引き込まれて袋状になり、そこに古い皮膚や耳垢が少しずつたまって塊になります。この塊が真珠腫と呼ばれることから、真珠腫と呼ばれる「がん」のような悪性の腫瘍ではありませんが、周囲の骨をゆつくりと溶かしながら、徐々に大きくなっていくという厄介な性質を持っています。真珠腫が小さい初期には自然に治ることもありますが(図2)。

真珠腫性中耳炎は、自然に治ることはなく、多くの場合、進行を食い止め、合併症を防ぐために手術が必要となります。

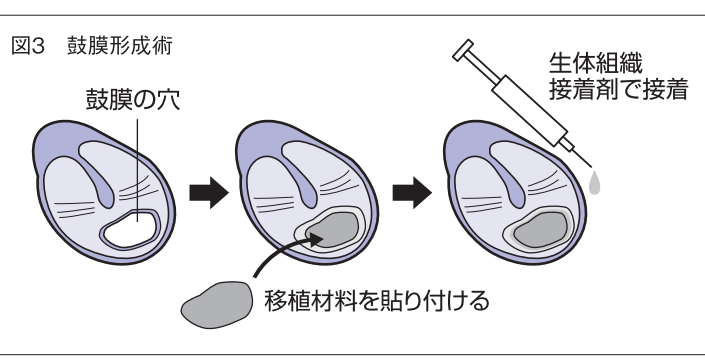
手術の方法
手術は、局所麻酔(鼓膜の周りだけに麻酔をする方法)または全身麻酔で行われます。どちらの麻酔を選択するかは、患者様の状態や希望、穴の大きさや位置などを考慮して決定します。

手術後の注意点
術後は、移植した材料が生着(自分の組織としてくっつくこと)するまで、安静に過ごすことが大切です。鼻を強くかむ、飛行機に乗る、重い物を持つ、激しい運動をするなどの行動は、鼓膜に圧力がかかり、移植材料がずれる原因になります。一定期間控えていただき、移植材料が生着し、鼓膜が再生するまでには数週間、数ヶ月かかります。その間、定期的に通院していただき、耳の中の状態を確認します。

手術の目的
鼓膜の穴をふさぐことで、耳だれの停止、感染の予防を目指します。穴がふさがると音が効率よく伝わるようになり、難聴の改善が期待できます(ただし、耳小骨の状態や内耳の機能によっては、聴力の改善が限定的となる場合もあります)。

穴がなくなることで、入浴や洗髪、水泳など、日常生活での水の侵入に対する心配がなくなります。また、耳だれのために使用できなかった補聴器も使用できるようになります。

鼓膜形成術
面を出します。そして、先ほど採取した移植材料を、鼓膜の穴を覆うように、鼓膜の下側(中耳側)に丁寧に貼り付けます。移植材料がずれないように、医療用の生体組織接着剤で固定します(図3)。



慢性中耳炎の手術治療① 鼓膜形成術について

中耳炎の手術について

後編

今回の解説
麻生病院
耳鼻咽喉科 医師
福田 篤



慢性中耳炎の手術治療②…鼓室形成術について

慢性穿孔性中耳炎が進行して、鼓膜の穴が大きい場合は、前述の鼓膜形成術では穴をふさぎきれません。また、中耳の内部にまで病変が及んでいる場合や、真珠腫性中耳炎のように複雑な病態では、鼓膜の穴をふさぐだけでは不十分です。

このような場合に行われるのが鼓室形成術という手術で、できるだけ正常に近い中耳の構造と機能(聴力)を再建することを目指す、より広範囲な手術です。鼓膜の穴(穿孔)をふさぐだけでなく、「鼓室」と呼ばれる鼓膜の奥の空間や、さらにその奥にある骨の中の空間(乳突蜂巣)にまで及んでいる病変(真珠腫、肉芽、感染した骨など)を取り除きます。

手術の方法

鼓室形成術は全身麻酔下で行います。手術は、耳の後ろの皮膚を切開する方法が一般的です。まず、耳の後ろの骨(乳突蜂巣)を医療用のドリルで削り、内部に広がっている真珠腫や炎症を起こしている組織、感染した骨などを丁寧に取り除きます。真珠腫の場合は、再発を防

ぐために、病変をできるだけ完全に取り切ることが非常に重要です(図4)。次に、鼓室にアプローチし、鼓膜の穴の処置や、鼓室内の病変の除去、耳小骨の状態の確認を行います。もし耳小骨が破壊されている場合は、「耳小骨連鎖再建術」を行います。これは、残っている自身の耳小骨を組み替えたり、耳の軟骨や人工的に作られた材料(人工耳小骨)を使ったりして、鼓膜から内耳へ音が伝わる経路を作り直す手術です。最後に、鼓膜形成術と同様

に、採取しておいた自身の組織(側頭筋膜や軟骨膜など)を用いて、鼓膜の穴をふさぎます。移植材料がずれないように生体組織接着剤で固定し、さらに医療用の詰め物(体内に吸収されるスポンジなど)を耳の穴に詰めて固定します(図5)。手術時間は、病気の広がり具合や、耳小骨を再建する必要があるかどうかによって大きく異なりますが、通常2〜4時間程度、場合によってはそれ以上かかることもあります。入院期間も、術後の状態によりますが、2週間程度が目安となります。

手術後の注意点

鼓膜形成術と同様に、術後は移植した鼓膜が生着し、中耳の状態が安定するまで、安静

は、病変の広がり方によっては、一度の手術で真珠腫を完全に取り除き、同時に聴力改善も行う場合(一次的手術)と、まず真珠腫の完全な除去を優先し、聴力改善は半年〜1年後に改めて行う場合(二次的手術、段階的手術)があります。どちらの方法を選択するかは、病状や患者様の状態から総合的に判断して決定します。真珠腫性中耳炎の場合は再発することがありますので、手術後も耳鼻咽喉科への定期的な通院が必要となります。

終わりに

今回は、慢性中耳炎とその代表的な手術である「鼓膜形成術」「鼓室形成術」について解説しました。当院では耳用内視鏡や手術用顕微鏡など、最新の医療設備と経験豊富なスタッフが備えて患者様に安心して手術を受けていただける体制を整えております。長引く耳だれや難聴は、単に不快だけでなく、その背後に真珠腫のような進行性の病気が隠れている可能性もあり

や感染予防が重要です。耳の詰め物は長期間入っていることが多く、定期的な通院による処置や経過観察が必要です。聴力の回復には時間がかかることがあり、最終的な聴力レベルが安定するまでには数カ月以上かかることもあります。特に耳小骨連鎖再建術を行った場合は、再建した部分がうまく機能するかどうか、経過を見ていく必要があります。

真珠腫性中耳炎の場合は再発することがありますので、手術後も耳鼻咽喉科への定期的な通院が必要となります。

編集後記

4133第38号を発行いたします。このたび、麻生病院に福田篤先生を、また北見病院には市立旭川病院でご活躍されてきた佐藤公輝先生をお迎えしております。福田先生は北海道大学にて聴覚疾患を専門に活躍されてきた先生であり、中耳手術の経験が豊富です。難聴にお悩みの患者様の強い味方になっていただけるものと思います。佐藤先生は西洋医学はもちろん、漢方医学にも精通しており、当グループの治療選択肢を幅広いものにしていただけるものと思います。今後の両先生のご活躍を期待しております。(患者サービス改善委員会 委員長 瀧 重成)

手術の目的
中耳や乳突蜂巣にある病変(特に真珠腫)を完全に除去し、病気の進行や再発、合併症を防ぐことが最も重要な目的です。また、感染や炎症の原因を取り除き、破壊された耳小骨の連なり(音の伝わる経路)を再建し、聴力を改善すること(耳小骨連鎖再建術)、そして、穴のない鼓膜を再建し耳だ

図4 鼓室形成術(真珠腫性中耳炎の場合)

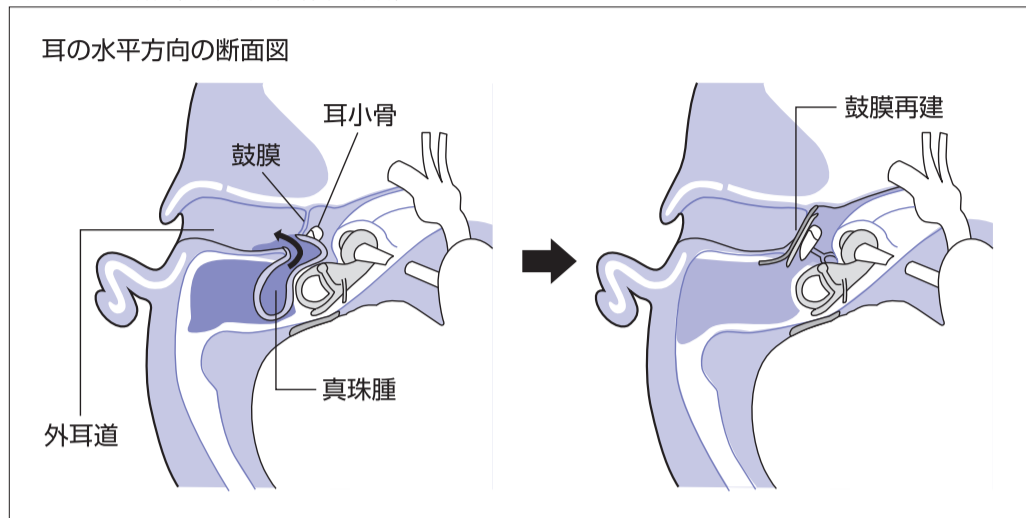
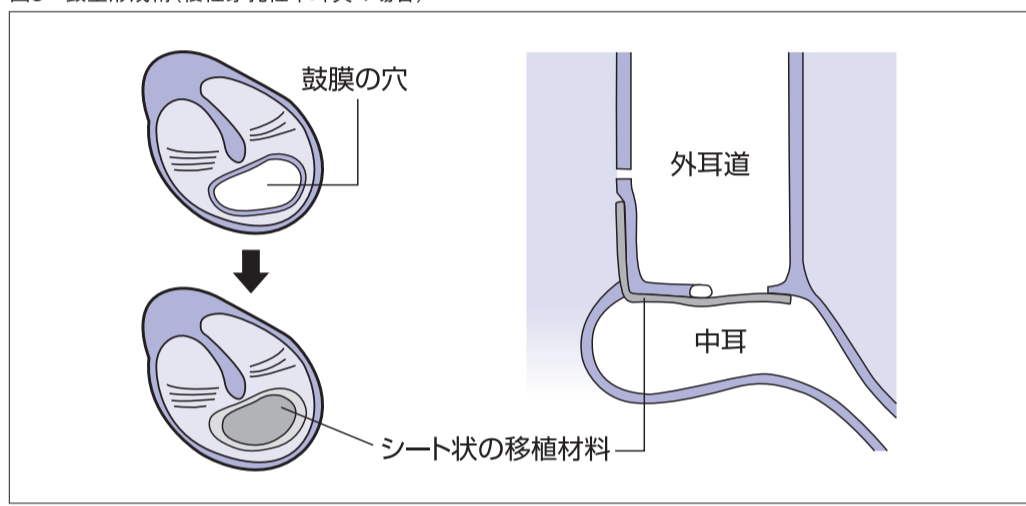


図5 鼓室形成術(慢性穿孔性中耳炎の場合)



2025(令和7)年4月より耳鼻咽喉科に赴任しました福田篤と申します。2009(平成21)年に北海道大学医学部を卒業後、北海道大学病院や道内の関連病院で研鑽を積んでまいりました。専門は難聴・中耳炎などの聴覚疾患で、鼓室形成術などの耳科手術を得意としています。皆様のお役に立てるよう努めますので、よろしくお願いたします。



麻生病院
耳鼻咽喉科 医師
福田 篤(ふくだ あつし)

New Face

ニューフェイスご挨拶

長らく市立旭川病院で診療し、耳鼻咽喉科全般にわたる多くの疾患を診させていただきました。10年ほど前から漢方薬に興味を持ち、外来診療にも漢方を活用しております。漢方も万全ではありませんが、体質に合った方々には喜んでいただいております。漢方処方のご希望がございましたらお気軽にご相談ください。



麻生北見病院
耳鼻咽喉科 医師
佐藤 公輝(さとう まさき)

AZABU INFORMATION
https://www.jibiazabu.or.jp/

耳鼻咽喉科 麻生病院

札幌市東区北40条東1丁目1-7
TEL.011(731)4133 FAX.011(731)4986

受付時間	月～金曜日	土・日・祝日
午前	9:00～12:00	9:00～12:00
午後	13:30～16:30	13:30～16:30
夜間	18:00～19:00	休 診

*歯科口腔外科は予約制(TEL.(011)731-0418)

年中無休 夜間診療(月～金 19時まで受付)

耳鼻咽喉科 麻生北見病院

北見市東三輪2丁目54-8
TEL.0157(23)4133 FAX.0157(23)2138

受付時間	月～金曜日	土・日・祝日
午前	9:00～12:00	9:00～12:00
午後	13:30～16:30	13:30～16:30
夜間	18:00～19:00	休 診

*歯科口腔外科は予約制(TEL.(0157)23-4134)

年中無休 夜間診療(月～金 19時まで受付)

耳鼻咽喉科 麻生28

札幌市中央区北5条西27丁目2-3メディック28ビル4階
TEL.011(641)4133 FAX.011(641)4155

受付時間	月～土曜日	日・祝日
午前	9:00～12:30	休 診
午後	14:30～18:00	休 診

*ただし、水曜日9:30～診療開始(9:00受付)

月～土 18時まで受付(日・祝日休診)

耳鼻咽喉科 麻生北クリニック

札幌市北区屯田9条3丁目1-20屯田メディカルモール2階
TEL.011(773)4133 FAX.011(773)1487

受付時間	月～土曜日	日・祝日
午後	14:00～17:30	休 診

月～土 17時半まで受付(日・祝日休診)